

2020年3月2日

各位

会社名 株式会社松屋アールアンドディ
代表者名 代表取締役社長 後藤 秀隆
(コード番号：7317 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経理部長 松川 浩一
(TEL. 0779-66-2096)

2020年3月期の業績予想について

2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)における当社グループの業績予想は、次のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円・%)

項目	決算期	2020年3月期 (予想)		2020年3月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年3月期 (実績)		
		対売上高 比率	対前期 増減率	対売上高 比率	対売上高 比率			
売上高		8,140	100.0	8.3	6,451	100.0	7,517	100.0
営業利益		331	4.0	83.7	310	4.8	180	2.4
経常利益		293	3.6	31.0	297	4.6	223	3.0
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益		188	2.3	65.7	240	3.7	113	1.5
1株当たり当期 (四半期)純利益		83円72銭		106円86銭		50円53銭		
1株当たり配当金		0円00銭		—		0円00銭		

- (注) 1. 2019年3月期(実績)及び2020年3月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。2020年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、予定期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 2019年3月27日付で、株式1株につき1,000株の株式分割を行っております。上記では、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。
3. 2020年3月期(予想)は2019年7月までの実績を踏まえて、2019年8月に予想したものとなります。なお、2020年2月に販売費及び一般管理費並びに営業外費用について翌期への期ズレが明らかとなった費用は、当期の費用から除いております。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月2日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧ください。投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

【2020年3月期業績予想の前提条件】

(1) 全体の見通し

当社グループは、「Safety & Medical Healthcare を通して科学技術の向上を図り人類に貢献する。」との経営理念のもと、長年培ってきた縫製に関する開発力・技術力を基盤として、優れた品質の製品を安定供給することにより、顧客満足度の向上を図るとともに、取引先・協力会社・地域社会・投資家の皆様方と従業員からの信頼と期待に応えられる企業を目指しております。

当社グループは、自動縫製機の製造・販売を行う「縫製自動機事業」及び当該機械を用いた血圧計腕帯、カーシートカバー、エアバッグ等の縫製品の製造・販売を行う「縫製品事業」の2事業を主力事業として事業活動を行っており、大口顧客であるオムロングループ各社からの血圧計腕帯製品の縫製品事業に関する安定的な受注を確保しております。

我が国経済の先行きについては、企業収益や雇用状況の改善により、緩やかな回復基調となったものの、世界経済においては米中貿易摩擦の激化や、欧州の政治情勢等に起因する景気減速懸念により先行き不透明感が増しており、縫製自動機事業においては、製造業の設備投資費用が削減されることも予想されますが、当社グループを取り巻く縫製にまつわる業界においては、人手不足を背景に縫製機器の自動化への需要が高まっており、縫製自動機事業における主力のレーザー裁断機やエアバッグメーカー向けの縫製自動機の開発、販売を強化してまいります。また、縫製品事業においては、血圧計腕帯について健康志向の高まりを背景として安定的な生産量が見込まれております。カーシートカバーやエアバッグの属する自動車業界では上記の環境から今後の業界動向としては不透明な状況であるものの、当社グループでは海外での生産拠点を活用するほか、当社製の縫製自動機を工程に活用することによりコストを抑えることで、当社グループへの生産委託を促し、カーシートカバーやエアバッグの縫製品の生産拡大に繋げてまいります。

上記の経営環境の中、当社グループにおいては、縫製工程の自動化技術が日々進化していく中で、裁断から縫製までの工程を揃える最先端の技術と特許を生かした当社の自動機械装置は顧客の生産力向上に貢献できると考え、縫製業界における日本版 industry4.0 を行うリーディングカンパニーとして、持続的な成長を目指してまいります。

しかしながら、海外での事業活動における地政学リスクを踏まえ、当期の売上の期ズレの発生可能性等も考慮し、2020年3月期の業績予想は、売上高 8,140 百万円（前期比 8.3%増）、営業利益 331 百万円（前期比 83.7%増）、経常利益 293 百万円（前期比 31.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 188 百万円（前期比 65.7%増）を見込んでおります。

(2) 売上高

縫製自動機事業においては、案件毎に過年度の実績を踏まえた販売価格に対し、受注確度を踏まえたリスクウェートを掛けた計画数値の積上げで策定しております。縫製自動機事業については、前期にメキシコ向けの自動縫製ライン等の大口売上の案件があったのに対して、当期は比較的大口案件が減少したことにより前期比では 23.4%減の計画と見込んでおります。

縫製品事業においては、血圧計腕帯、カーシートカバー、エアバッグ等の製品毎の取引先からの内示情報に基づき、数量と単価を乗じて策定しております。血圧計腕帯については、客先の在庫調整の影響等により、2,724 百万円（前期比 9.4%減）の計画と見込んでおります。カーシートカバーについては、中近東向けや北米向けの車種の受注が増加した影響により、3,042 百万円（前期比 8.9%増）の計画と見込んでおります。エアバッグについては、前期に増設した生産ラインが本格稼働したことにより、生産量が増加したため、1,392 百万円（前期比 195.4%増）の計画と見込んでおります。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月2日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

以上の結果、縫製自動機事業の売上高としては、900 百万円（前期比 23.4%減）、縫製品事業の売上高としては、7,240 百万円（前期比 14.2%増）となり、2020 年度の全体の売上高は 8,140 百万円（前期比 8.3%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間における業績進捗につきましては、縫製自動機事業においては、欧州のエアバッグメーカー向けに大型の縫製自動機を納めたことなどから、538 百万円となっております。

縫製品事業においては、血圧計腕帯については、主に中国向けの機種が増加しており、2,457 百万円、カーシートカバーについては、中近東向けや北米向けの車種の受注が増加した影響により 2,397 百万円、エアバッグについては生産ラインの増設により 997 百万円となっております、縫製品事業全体としては 5,913 百万円となっております。

(3) 営業利益

売上原価について、縫製自動機事業においては、売上高と同様、案件毎の積上げで策定しており、売上の減少に伴い 761 百万円（前期比 23.3%減）の計画と見込んでおります。

縫製品事業においては、過年度実績ベースと各取引先との間で合意した材料単価をふまえて策定しており、売上の増加以外に、主にカーシートカバーの海外拠点における縫製工の習熟度の向上により、6,235 百万円（前期比 12.0%増）の計画と見込んでおります。

販売費及び一般管理費については、当社における営業部門、製造部門及び管理部門の人員増による人件費 356 百万円（前期比 3.1%増）、運賃、支払手数料等について個社別に積み上げて策定しております。

以上の結果、販売費及び一般管理費は 810 百万円（前期比 4.1%増）、営業利益は 331 百万円（前期比 83.7%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間における業績進捗につきましては、売上原価については、縫製自動機事業において、前期より工程管理を見直し、外注費を抑えることができ、原価率が改善し、464 百万円となっております。縫製品事業においては、売上の増加以外に、主にカーシートカバーの海外拠点における縫製工の習熟度が向上したほか、工程の見直しなど効率化を図ったことで原価率が改善し、売上原価は 5,086 百万円となっております。

販売費及び一般管理費については、当社における営業部門及び管理部門の人員増に伴う人件費の増加を主要因として 590 百万円となっております。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外損益について受取利息や支払利息の他、上場関連費用 2 百万円を織込んでおります。

以上の結果、経常利益は 293 百万円（前期比 31.0%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間の経常利益は 297 百万円となっております。

(5) 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益に関しては 2019 年 4 月～7 月までの実績を反映している以外は特段織込んでおりません。また、法人税等については、各社の法定実効税率をもとに見込んでいるほか、連結子会社からの配当金に係る源泉税や繰延税金資産の変動などを考慮して見込んでおります。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は 188 百万円（前期比 65.7%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は 240 百万円となっております。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020 年 3 月 2 日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月2日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。